小金小だより 12月号

校訓　なかよく・ただしく・たくましく

令和５年 11 月 30 日
松戸市立小金小学校
校　長　西郡　泰樹

「つらいことに耐え、がんばりきることこそが必ず力となる！」

師走１２月を迎えます。寒さの厳しい日が少なく、あと１か月で今年が終わっていくという感じがしません。そうした中、いろいろなことで季節感がなくなっている気がします。特にこれからの年末年始では、年賀状も書かない。歳暮や新年の挨拶回りもない。年越しそばやおせち料理、雑煮も食べないというような話をよく聞くようになりました。しかし、どういうわけかクリスマスには、ケーキを食べたり、プレゼントをもらったり、チキンをいただいたりします。ハロウィンも盛大にやっていますので、和的なものより、洋物が幅をきかせているように思います。楽しいと思うことや簡単にできそうなものには飛びつきますが、手間がかかったり、形式張ったりするものは敬遠されているのではないかという気がします。それがたまたま和的なものに集中しているのかもしれませんが･･･。

学校でもコロナ禍や業務改善の名の下に、変わってきているものがあります。この機会をうまく捉えて、無駄だったことや改良、改善すべきことが変わっていくことは必要だと思います。しかし、その基準となるものが曖昧なためか、大切だと思うようなことまで削ってしまっているように思えてならないのです。

学校行事の精選はコロナ以前にも言われていたことですが、そのそれぞれに必要性や意義があり、簡単にはなくすことができませんでした。コロナ禍以後には、削減されると思ったことも、結局もとに戻ってしまい、それだけでなく、以前のノウハウを知らない中で進めていかなければならないことに苦慮しています。これは学校に限ったことではありませんが。

学校においては、それをやることが子どもたちにとって意義があるかどうかという基準で考えます。学校ですから「みんなでやる」ことに意義があり、それをやることによって、「子どもたちの成長」という大きな成果が期待されるものでなければならないとも思います。

先日、今年も「校内マラソン大会」が行われました。子どもたちにとってはどちらかというと苦手な類いのものです。しかし、だからこそ、逃げずにやり遂げたときに子どもたちの成長が期待されるものです。昨今、便利になり、また自分にとって都合のよいことだけやればよいとなりつつある中、

自分の頑張りだけが必要とされ、結果をそのまま受け止めなければならないものは正直辛いものもあります。でもそれに耐え、がんばりきることこそが今の子どもたちに必要とされるものなのだと思います。ある先生は「もう学校は、我慢させたり、耐えさせたりする場所ではない。」と話されました。しかし、家庭でも、地域社会でもこうした機会は学校より少ないと思われるから、学校でやらなくてはいけないのだと思います。当日は好天の中、がんばりきった子どもたちの清々しい笑顔がいっぱいありました。

まもなく学期末、そして冬休みとなります。地域の皆様、保護者の皆様には学校創立１５０年の年であった２０２３年。本校の教育活動に多大なるご理解ご協力をいただきました。ありがとうございました。深く感謝を申し上げるとともに、少しはやいですが、よいお年をお迎えください。

教育はみんなで　校長　西郡 泰樹